



Tabi and Storehouse 和装文化が根付く 足袋と蔵の“よい関係”

市内には明治時代から昭和に建てられた蔵が数多く存在しています。中でも市の主要な産業として発展した足袋の生産に関わる足袋蔵があり、最盛期には年間約8,400万足の足袋を生産するまでに発展しました。蔵があるところに足袋あり！和装文化が根付く足袋と蔵の関係を少しのぞいてみませんか？



カタンゴトン♪

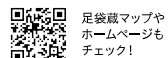
足袋産業と足袋蔵



足袋蔵まちづくりミュージアム

明治39年(1906)建設の元栗原代八商店の土蔵造りの足袋蔵。現在は、観光案内所兼まちづくり情報センターに活用されており、日本遺産ガイドダンスセンターも設置されていて、日本遺産や足袋蔵についての情報を提供しています。

所在地 行田5-15
会館時間 午前10時～午後4時
休館日 8/13-16、年末年始
問合せ 048-552-1010



足袋蔵マップやホームページもチェック！

足袋とくらしの博物館

大正11年(1922)に棟上げされた元牧野本店の足袋工場で、足袋産業全盛期の面影を残しています。現在は、工場の面影をほぼそのままに残した博物館として生まれ変わり、職人さんによる実演を見学することができます。

所在地 行田1-2
会館時間 土曜・日曜/午前10時～午後3時
問合せ 048-552-1010

足袋作り体験もできるよ！
(有料・予約要)



忠次郎蔵

足袋原料問屋だった小川忠次郎商店の土蔵造りの店舗併用住宅です。国登録有形文化財に登録されており、現在は手打ちそば店として再活用されています。蕎麦打ち教室も開催しており人気です。

所在地 忍1-4-6
会館時間 午前11時～午後2時
定休日 月曜日
問合せ 048-556-9988



足袋ができるまで

足袋づくりは一見シンプルな作りに見えますが、実はとても奥が深いものでもあります。いくつもの工程を全て手作業で行います。



①引き伸し

布を裁断しやすくするため、何枚かに重ねて整えます。

④押さえ

通した糸が動かないように縫い付けます。

⑧甲縫い

甲の部分を縫い合わせます。

⑪廻し

つま先部分以外の表・裏・底の布を縫い合わせます。

②裁断

重ねた布に専用の金型を当てそれぞれ裁ちます。

⑤ハギマチ

こはぜをつける部分の裏に布を縫い付けます。

⑨尻止め

かかと部分を丸く縫い止めます。

⑫千鳥

廻し縫いをした後、補強のためその周りを千鳥掛けします。

③通し

こはぜを留めるための掛け糸を布に通します。

⑥甲馳つけ

こはぜを縫い付けます。

⑩爪

表・裏・底の布を合わせて、つま先部分を袋状に縫います。

⑬仕上げ

形を整えアイロンを掛けてしわを伸ばします。

※以上の13工程は、伝統的な足袋の製造工程として紹介していますが、近年は⑤ハギマチを行わない場合があります。

行田市ガイド

Gyoda City



フォトギャラリー

